

編集・発行責任者；木下耕一 〒157-0066 東京都世田谷区成城 8-24-1 - A-201  
Fax&Tel 03 - 3482 - 5257 / E-Mail ; kino-coh1@amy.hi-ho.ne.jp

## 介護保険まであと1年！

### 今年は、勝負の年

一ヶ月もご無沙汰してしまいました。年度も改まり新たな気持ちでエスカルゴを書いていきたいと考えていますので、よろしくお願ひします。

さて、九十九年度は、かたつむり、そして、たましりの郷建設運動にとっても勝負の年。これまで以上に勉強をし、また、体を動かしていかうと思ひます。

### かたつむり職員募集

長島さんと森田さんという二人の職員がかたつむりを退職された。昨年の秋以降、かたつむりのボラに行く度にお世話になつていたのでショックだった。私のような週末ボランティアが偉そうにいえる問題ではないけれど、日常的に作業所を支えていく事の難しさを改めて感じた。

### 手話通訳士協会学習会

三月十四日新大久保で「介護保険と聴覚障害者」というシンポジウムが開かれた。介護保険とは何か？というだけでなく、もっと具

体的に「手話通訳者として介護保険とどう関わつていくのか」を問ひ掛けた学習会だった。詳しい内容は四月中にまとめが出される。

「介護認定」のための訪問調査で、ろうあ老人の権利を守る手話通訳ができるのか、そもそも手話通訳が保障されるのか、大きな不安を感じた。

大阪ろうあ会館では独自に「手話のできるホームヘルパー」を養成し派遣事業を始めている。介護保険スタート時には、自ら指定サービス事業者となつて聴障者のケアを担つていくという戦略。東京のろうあ団体はどのように考え、計画し、準備を進めているのだろうか、ちつとも聞ひえてこない。

### 介護保険総点検

先日、全通研岐阜集會でも今回の土協会学習會でも

大阪や京都のメンバーの危機感を肌で感じ、慌てて勉強をしている。障害者にとつても、措置から契約&サービスへという流れは、もうすぐそこまで来ているのだ。勉強不足を痛感。川

村匡由著「介護保険総点検」(ミネルヴァ書房)は、二千四百円もするけど介護保険全般についてなかなかよくまとめられている。

### 制度作りに関心を持つ

四月三日市民福祉サポートセンター主催のシンポジウムに参加した。石毛英子という民主党の議員が司会で、厚生省老人保健福祉局介護保険制度施行準備室の高井室長と毎日新聞の斎藤記者がパネラーだった。

石毛さんの問題指摘は介護保険に関する現在の議論は、医療に傾きすぎ。これでは医療費を介護保険給付に転嫁されてしまうこと

になる。現在の質と量で本当に「サービスを選ぶ」ことが出来るのか？ キチンと苦情を言えるのか？というもの。

斎藤記者の発言で面白かつたのは、「市町村で給付や保険料のレベルがまちまちになるのは構わない。それこそ地方自治だ」なるほど厚生省が全国一律にこだわるあまり、最低限のレベルに合わせる細々と規則を作つて縛るより、住民がもっと積極的に介護保険制度作りに参加し、制度を育てていくという意識を持つことが大切だと感じた。

### サービス拒否？

午後の分科会では痴呆老人を抱えた方の発言で、「痴呆が重すぎてサービス事業者から拒否されることが心配」との厳しい指摘があつた。なるほど重度の痴呆老人やろう重複障害者が民間サービス事業者から「割に合わない」と敬遠・排除される恐れがあるなあと感じた。要介護認定申請まであと半年、さらに勉強だ。